

遊休不動産とアーバンデザイン～second season～ 立地適正化計画に則った山あげ会館企画案

地域名: 那須烏山市

パートナー名: NPO法人クロスアクション

21班 コミュニティデザイン学科 佐藤 瑠久 千葉 奈央

建築都市デザイン学科 神田 紗穂 平賀 圭梧

社会基盤デザイン学科 笹原 尚人

背景と目的

- 那須烏山市では人口減少と少子高齢化が進んでおり、都市環境の変化の必要である。
 - 前年度のヒアリング調査より交流できる拠点のニーズが高いことがわかっており、中心市街地に位置している「山あげ会館」の効果的利用が期待されている。
 - 「山あげ会館」の維持費には1800万円/年を要しその大半を行政からの補助金で補っており、入場者数は万人/年以下の横ばいの状態になっている。
 - 「山あげ会館」は維持費/立地的条件を十分に活かしているとは言えない状況である。
- これらを踏まえて、本プロジェクトでは「山あげ会館」の今後の活用方法を提案することが目的である。



写真①



写真②

活動内容

- 4/19 顔合わせ&昨年プロジェクトの振り返り
- 5/21 フィールドワーク①
- 6/18 フィールドワーク②
- 7/28 ヒアリング調査
- 10/23 フィールドワーク③
- 11/26 フィールドワーク④
- 12/2～12/22 「山あげコモンズ」試験的運用

1st Cycle

前年度のふりかえり、市内散策を通して当地域の背景の理解に努めた。その上で、前年同様「山あげ会館」の活用方法の提案を目標とした。「山あげ会館」は文化継承施設の役割を担っているが機能しておらず、当地域の文化資源として烏山和紙、島崎酒造があり、施設の見学を行った。

2nd Cycle

山あげ会館の1800万円/年の維持費の行政負担を減らすために、利益を生み出す必要があるにもかかわらず売店は死角にあった。来場者の目につく場所に売店(写真①)を移動、それに伴い空いたスペースの活用方法として自習室を設置する提案が生まれた。また、同市で立地適正化計画が策定され、町なか交流コアとしての役割が期待されていた。これらを踏まえて、自習室と交流コアの両立した空間「山あげコモンズ」(写真②)を設けることとした。

3rd Cycle

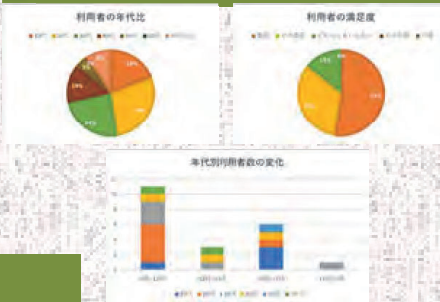
「山あげコモンズ」を設置し、19日間の試験的運用を行った。同時にアンケート調査を実施し、今後の持続的な活用に向けて提案の参考とした。

調査内容

調査は「山あげコモンズ」内にアンケート用紙を設置し、利用者が任意で回答を行う形で実施した。同時に回収BOXを設置し、回答者が自身で入れることで回収を行った。

内容としては、性別と年齢の基本属性/利用した時間帯/山あげコモンズを利用するの満足度とその理由/今後の山あげコモンズの運営についての要望の4項目の回答を得た。

分析結果



12/2～12/20の20日間で21票の回答を得た。利用者の満足度は高く、継続した運営を望む声も多かった。現在の9～17時の営業時間の延長を望む声が小中学生を中心に見られた。コモンズ内の快適さ向上のため、設備の充実を望む声もあった。

提案

提案コンセプト

「山あげコモンズ」の長期的運営

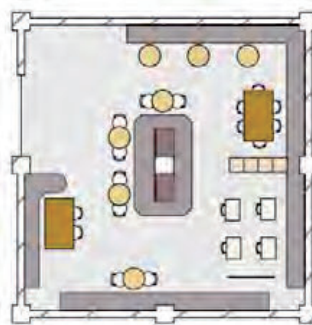
提案趣旨: 分析結果より「山あげコモンズ」のニーズを読み取れ、運営団体の観光協会も継続した運営をしていく計画である。今後長期的運営を行っていく上では、集客と稼働率の向上が必要である。ここでは集客と稼働率の向上に向けて、3学科の各視点から考えられる。今後の活用法、施設内の利用法、公共交通機関との連携に

集客・稼働率を向上させるためには、地元住民また、地域外の人々に向けての認知度を上げる必要がある。そのためにワークショップや朝市といった山あげコモンズ内や周辺でイベントを開催することで認知度と同時に「親しみ」の向上が考えられる。

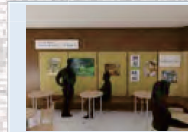
利用者の山あげ会館までの交通アクセスに関しては、自転車や自動車の利用が見込まれる。また、那須烏山市には乗り合いタクシーなどのデマンド交通などがあり、自転車や自動車を利用しないお年寄りも、訪れることも可能である。



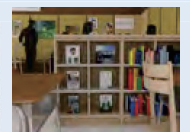
試験運用図面は、山あげコモンズが市民にとっての“まちなか交流コア”の機能を果たすことをコンセプトとし、設計した。また、提案図面は試験運用でのアンケートを経て、コンセプトの+αとして市民の要望に応える空間となるように、改善した。(各図面のスケールは1/50となっている)



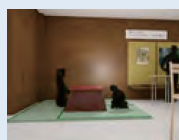
山あげコモンズ試験運用図面



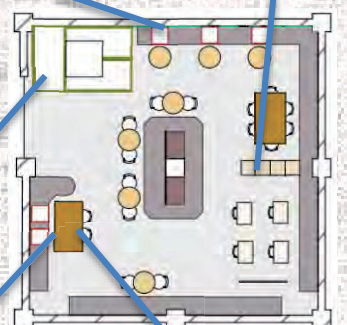
絵画や書道といった市民の作品を展示すること、足を運んでもらうきっかけになるだけでなく、空間に活気生まれる。



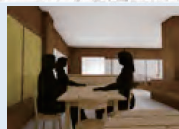
本棚に烏山のガイドブックや烏山の歴史の本を置くことで、訪れた観光客に烏山の魅力を知ってもらおう。



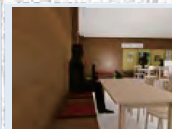
畳を敷くことによりキッズスペース/高齢者のくつろぎの場を可能にする(冬季はこたつの設置)



山あげコモンズ提案図面



大人数(5～6人)が座れる場をつくることで、ワークショップなどのグループ的な活動を行うことが可能



椅子にクッションを敷くことにより利用者に快適性を与える。

課題

集客においての課題として、小中学生の放課後利用を可能にするために営業時間の延長があるが、労働力の確保が問題である。また、イベントの開催を誰をするのかという担い手の問題もあり行政と市民団体の連携がとられた主体的な行動が求められる。